

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

研究図書（現在は電気系のみ）の3ブロックに、
学術雑誌は和文、欧文別にアルファベット順に、
一部の新着および未製本雑誌は北窓側の雑誌架
に、まとめて配架されております。閲覧席は126
席あり、すべて書架の周囲に、開架図書と一体の
座席配置とし、教官用、学生用など区別はつけて
おりません。

二階階段両脇にはマイクロリーダー室、グルー
プ閲覧室、教官閲覧室や休憩コーナーが並んでおり
ます。グループ閲覧室は8席で黒板その他を備
え、図書館資料を利用するグループでの研究、調
査、打ち合わせなどに使用することができます。

二階フロアには現在館員は配置しておりませ
んが、カウンター設置のスペースは確保しており、
将来閲覧室や書庫が増設される場合には、直ちに
二階カウンターでもサービスを開始できるように
なっております。

一階カウンターには常時館員が待機し、資料の
利用相談、貸出し、返納、複写受付、調査依頼、
照会などに応じております。また事務室内には
JICSTオンライン情報システムの端末機が設置さ
れており、JICST理工学文献ファイル、CA Search
化学文献ファイル、CLEARING 国内研究案内フ
ァイルなどから、利用者自身で自由に情報検索を
行うことができます。気軽に申しいで、御相談、
御利用下さい。

おわりに

大学における図書館の重要性は誰しも認めると
ころであります。一大学、一図書館のみで資料
を体系的に収集し、研究者の要求に応えること
は、現在は不可能な状態になって参りました。本
工学分館も東北地区の工学関係図書館と文献相互
利用体勢を組み、地域研究者へのサービスに努め
ることを考えております。さらに欠落している一
次資料を、広範かつ体系的に収集して館内容の充
実をはかり、東北地区の工学拠点図書館としても
お役に立ちたいと念願しております。

本館が期待通りの成長をするのには、今後工学
分館としての自身の努力と、全学の御協力が長年
にわたって必要ではあります。特に図書館利用
の主体である教職員、学生の皆様の積極的な分館
活用が一番の励ましとなることであらうでしょう。

なお一層のお力添えをお願いいたします。

注1 ブックデテクション・システムは磁気感知の原
理を応用して、図書館資料の館外持出をチェックする
機能を持つ新しい装置ですが、本来の導入目的は、む
しろ、利用者サイドに立って、従来各図書館が私物持
込禁止規定によって惹き起していた、図書館備付の資
料と利用者持参の資料とを同時に館内で使用できな
かった不便を除いて、利用の自由が拡大できるよう
なることにあります。それは又、私物保管のためのロッ
カーの管理などの煩雑さから、図書館員を労力的に
も、心理的にも解放できることにつながるものです。

附属図書館工学分館工事概要

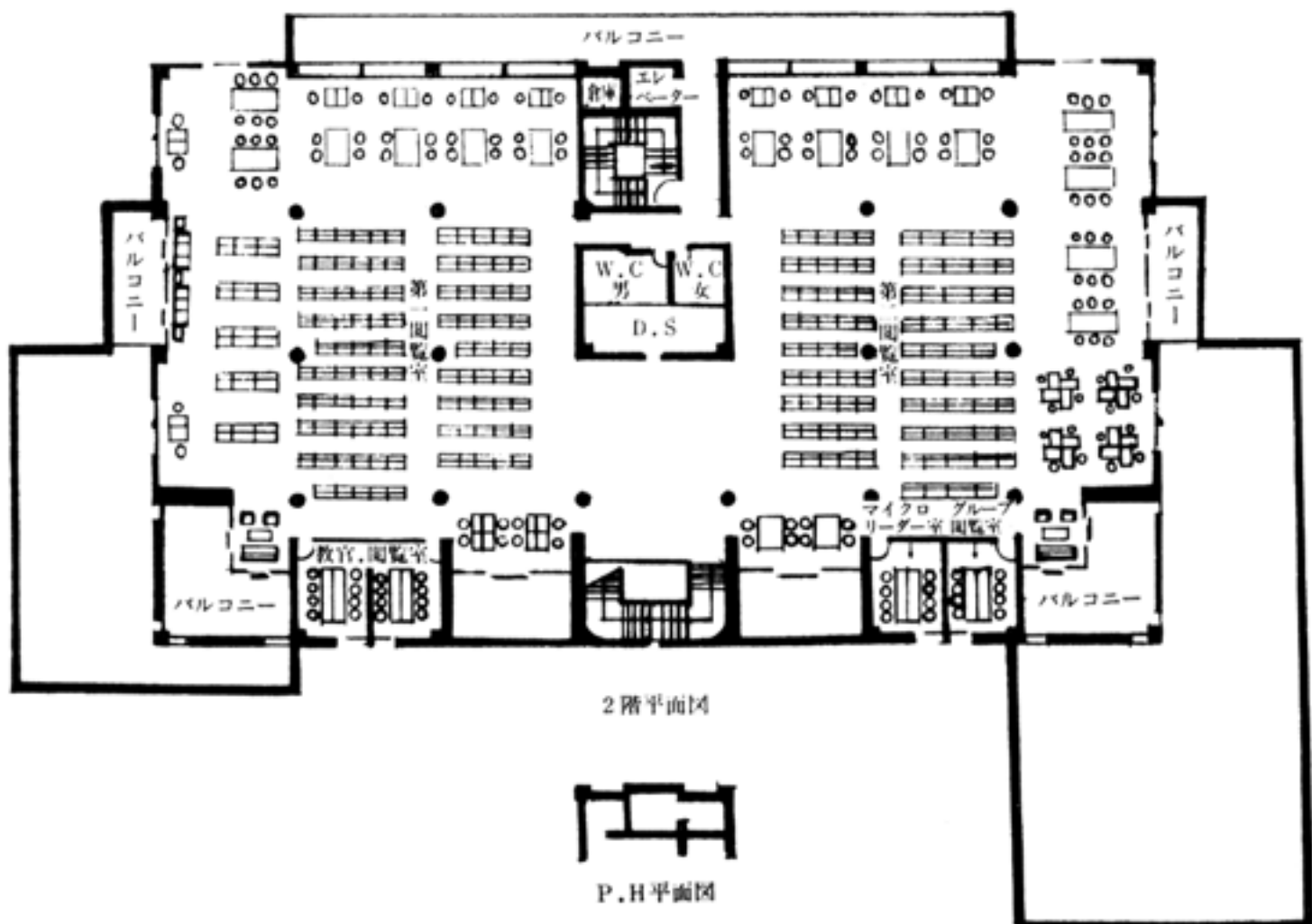
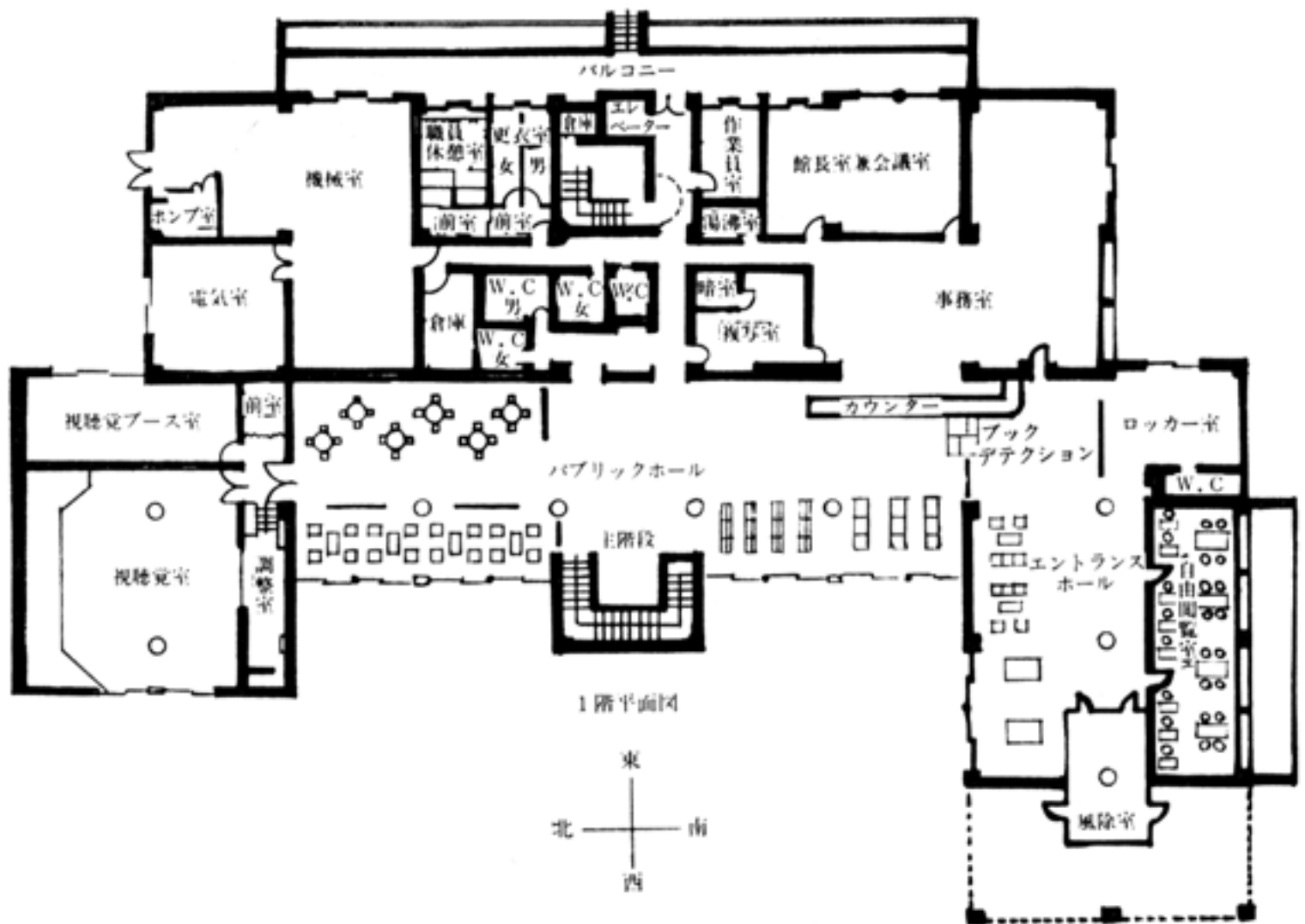
設 計 者 東北大学施設部
着 工 1980年2月9日
竣 工 1980年11月10日
構 造 鉄筋コンクリート2階建
床 面 積 1 階 1,507.22^m² P.H 85.34^m²
中2階 7.85^m²
2 階 1,111.77^m² 合計 2,712.18^m²
設 備 電気設備・火災報知設備・エレベータ設
備・給排水ガス設備・空気調和設備

総 工 費 389,730千円
工事関係会社 建 築=前田建設工業株式会社仙台支店
電 気=岡野電気工事株式会社仙台支店
空調設備=丸紅設備株式会社仙台支店
そ の 他
エレベーター=三菱電機株式会社東北営業所
外部仕上 打放し

内部仕上

	室 名	床	壁	天 井
1 階	風 除 室	陶 器 質 タイル	打 ジョイント	ア ル ミ ル ー バ ー
	エントランスホール	〃	放 テーパーボードEP	寒 冷 沙 目 地 EP
	ロッカーコーナー	〃	〃	〃
	目 録 コ ー ナ ー	ビニール床シート	〃	不 燃 化 粧 石 膏 ボ ー ド
	ブラウジングコーナー	〃	〃	〃
	自 由 閱 覧 室	〃	モ ル タ ル 塗 EP	〃
	事 務 兼 議 室	ビニール床タイル	コンクリート打放しEP	〃
	応 接 室	ジュウタン張り	〃	石 膏 ボ ー ド EP
	作 業 員 控 室	ビニール床タイル	〃	フ レ シ キ ブ ル 石 綿 板 EP
	暗 複 写 室	〃	〃	〃
中2階	更 衣 室	タ タ ミ	コンクリート打放し	石 膏 ボ ー ド EP
	職 員 休 憩 室	〃	ジュラクサテン吹付	杉 柵 天 井 目 ス カ シ 張
	視 聴 覚 ブ ー ス	ジュウタン張り	有 孔 樑 ベ ニ ヤ	石 膏 ボ ー ド 立 体 岩 綿 吸 音 板
	視 聴 覚 整 理 室	〃	有 孔 樑 ベ ニ ヤ	〃
	調 査 庫 1.	パーケットフロア	有 孔 樑 ベ ニ ヤ	化 粧 石 膏 ボ ー ド
	湯 沸 庫 2.	ビニール床タイル	打 放 放 放 放 放 放	打 放 放 放 放 放
	倉 庫 5.	〃	コンクリート打放しEP	フ レ シ キ ブ ル 石 綿 板 EP
	倉 庫 5.	〃	打 放 放 放 放 放	打 放 放 放 放 放
	倉 庫 5.	ジュウタン張り	打 放 放 放 放 放	化 粧 石 膏 ボ ー ド
	ラウンジ 1.	〃	打 放 放 放 放 放	〃
2 階	グループ閲覧室	〃	打 放 放 放 放 放	〃
	マイクロリーダー室	〃	〃	〃
	教官閲覧室	〃	〃	〃

東北大学附属図書館工学分館



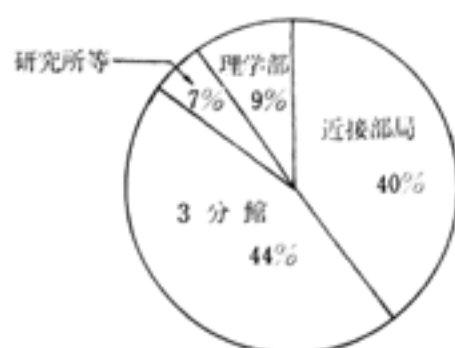
昭和54年度・中央図書館利用状況の概要

中央図書館の利用状況について、昭和54年度利用統計をとりまとめた。これらのうち主要なものを図表にして次に掲載する。

注：表中の〔 〕内は昭和53年度のデータ。

1 利用対象者数

- 全学総数 18,135人
- 分館（医・工・農学）利用対象者を除く数 10,131人
- 近接部局利用対象者数 7,240人

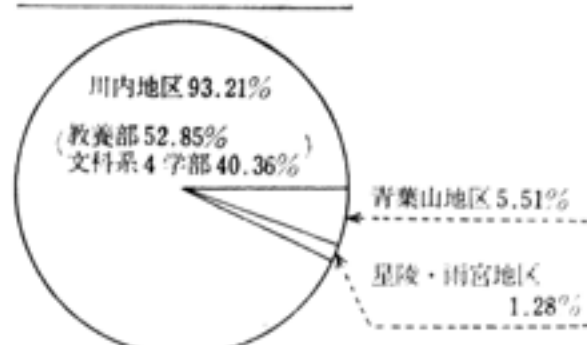


注1：近接部局とは、川内地区の文・教育・法・経済の4学部及び教養部をさす。

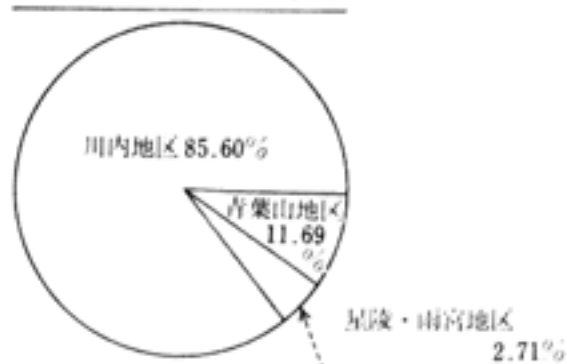
2 入館者数（推定）

- 年間総数 525,027人〔523,814人〕
- 1日平均数 1,810人〔1,806人〕
- 学生の入館数 497,477人〔496,264人〕

学生・地区別比率（全学生）



学生・地区別比率（学部学生）

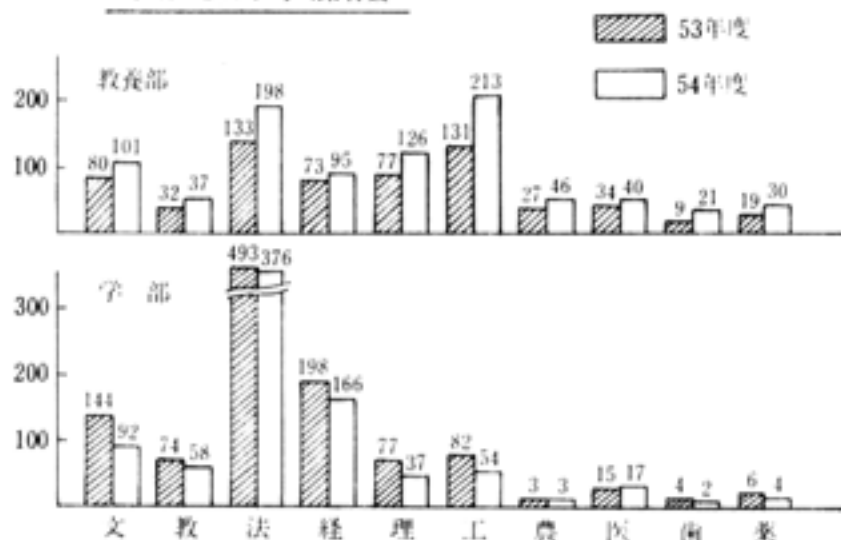


学生・部局別入館者数（入館者実態調査より推計）

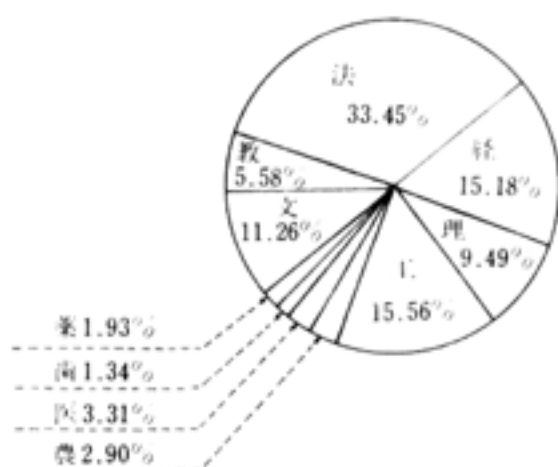
		文	教	法	経	理	工	農	医	歯	薬	計	
												1日平均(人)	在籍1人当(回/年)
教養部	1日平均(人)	101	37	198	95	126	213	46	40	21	30	907人 [615人]	58回 [39回]
	在籍1人当(回/年)	91	79	124	60	61	37	43	47	38	52		
学部	1日平均(人)	92	58	376	166	37	54	3	17	2	4	809人 [1,096人]	47回 [63回]
	在籍1人当(回/年)	71	101	188	94	18	10	3	10	3	6		
計	1日平均(人)	193	95	574	261	163	267	49	57	23	34	1,716人 [1,711人]	52回 [52回]
	在籍1人当(回/年)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

※ 年間開館日数：290日〔290日〕

学生・1日平均入館者数



学生・部局別比率（教養部を含む）



3 閲覧・貸出冊数（全利用者）

イ) 開架閲覧室資料

単位：百冊

主題	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業学	芸術学	語学	文学	雑誌	計
閲覧	37	53	56	251	359	37	2	31	133	106	17	1082
貸出	8	32	20	88	125	17	0.5	7	6	50	0	353

ロ) 書庫内資料

単位：百冊

主題	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業学	芸術学	語学	文学	雑誌	計
閲覧	3	5	7	11	4	0.2	0.2	2	0.5	8	31	72
貸出	14	31	29	89	6	0.3	1	4	4	22	32	232

4 入庫者数

53年度	院生 4,992人	教職員 1,878人	計 6,870人
54年度	院生 5,283人	教職員 1,996人	計 7,279人

5 文献複写実績

	件数	枚数	金額
学内	1,869 ^件 (2,172)	28,197 ^枚 (20,776)	1,203,540 ^円 (884,690)
学外	1,334 (1,157)	54,765 (40,718)	2,547,647 (2,143,510)
計	3,203 (3,329)	82,962 (61,494)	3,751,187 (3,028,200)

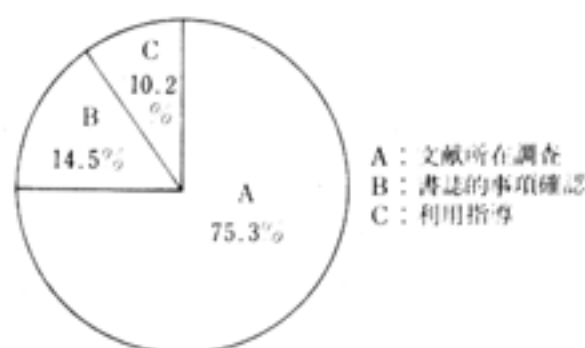
() は昨年の実績

6 レファレンス応答件数

6,009 [6,182]

	教官	院生・学生	図書室	計
人文社会	245 [318]	1,701 [1,564]	24 [8]	1,970 [1,890]
自然	777 [1,044]	1,642 [1,615]	375 [126]	2,794 [2,785]
計	1,022 [1,362]	3,343 [3,179]	399 [134]	4,764 [4,675]

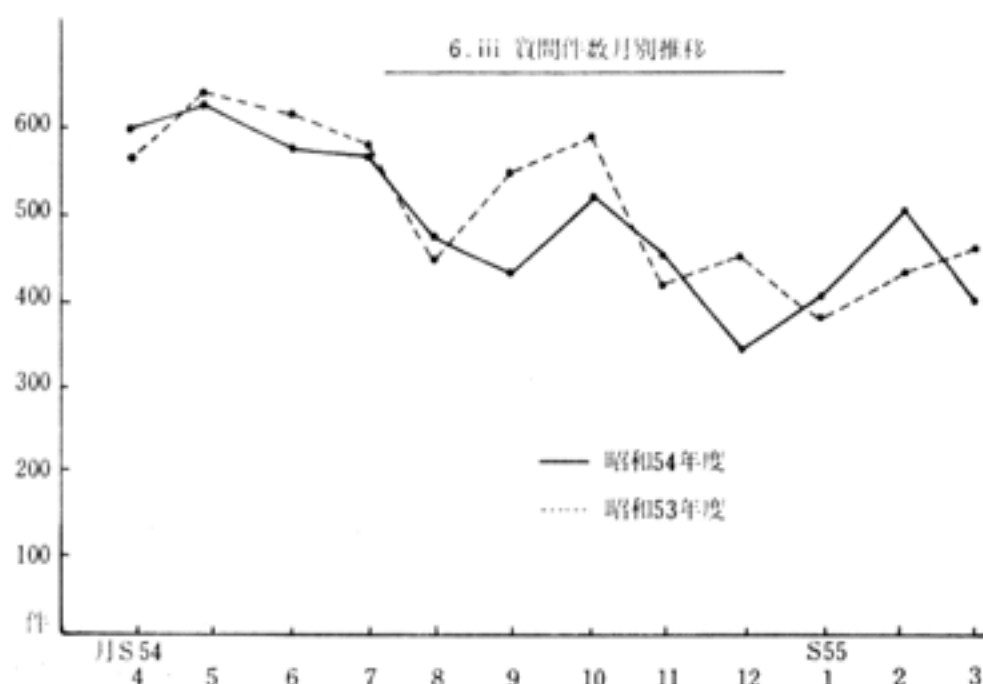
6. i 質問内容別比率



6. ii 質問手段別比率



6. iii 質問件数月別推移



学術情報センターシステム説明協議会及び

「学術情報センターシステム開発調査概要」要旨

3月26日国立教育会館において、学術情報センターシステム説明協議会が行われた。この協議会は、このシステムに大きな役割を担うことになる大学図書館及び学術情報処理の施設等の関係者に学術情報センターシステム開発調査結果を報告し、その趣旨に理解と協力を要請し、意見交換を行うものである。

開発調査概要の全文は大学図書館協力ニュース No.1, No.6 に掲載されているが、その要旨を掲載する。なお、本学からは、大型計算機センター長田中信行教授、当館長尾事務部長が出席した。

経 緯

昭和55年1月の学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」を具体化するため、昭和55年度に学術情報センターシステムについて、大型計算機センター、大学図書館等の学識経験者に、学術情報センターの機能、コンピュータ・システム、ネットワークシステムその他関連する事項についての調査検討を依頼し、その結果が開発調査概要としてとりまとめられた。この調査結果を昭和56年度以降における学術情報センター設置調査及びソフトウェア作成ならびにハードウェアの具体化等に当たっての基礎的資料とするものである。

要 旨

1. 学術情報システムの性格

学術情報システムは、大学等の研究者の要請に応じて、人文・社会・自然科学にわたる学術情報に関する諸資源を共有し、これを相互に有効に利用し、研究・教育の進展に資するという理念に基づくものである。すなわち、多くの大学・研究機関等が保有する資源と、収集、検索、配布等の能力を有機的に統合するネットワーク構造であり、現在すでに個別的に大学等の間において行われているいくつかの情報システムを再編成し、また、図書・雑誌等の目録・所在情報システムを整備して大学図書館業務の合理化等を図る全国的、総合的な大学共同利用の情報システムである。

2. 学術情報センターの機能（計画・調整、サービス、研究開発、教育訓練）

学術情報システムを有機的に活動せしめるためには、その中枢機関として学術情報センター

を設置し、次の機能を果たさせることとし、所要の組織・機構を整備する必要がある。

- ① 大学等の要請に応じたネットワークシステムの内外にわたる計画・調整
 - ② 急激に進歩する情報科学の発展に対応した、学術情報処理に関する研究開発
 - ③ 学術情報センターが集中的に担うことが効率的と考えられる二次情報データベース、一次資料目録及び所在情報データベース等の形成、運用、提供
 - ④ 各種手引書の作成及び研修会の開催等利用者の教育訓練
3. 学術情報センターのコンピュータ・システム
- コンピュータ・システムの規模・能力については、処理するデータ量等を勘案した大型機レベルが必要であり、端末装置の標準的仕様の決定やソフトウェア作成の早期着手が必要である。また、接続すべき通信回線網としては、基本的には新データ網が最適である。サービス活動を開始するに至るまでのセンターシステム整備の年次計画としては3カ年程度を要する。
4. 学術情報ネットワークの共同利用の在り方
- 利用者の範囲は、基本的には、大学院生を含む大学等の研究者とし、学部学生も条件つきで認めることが望ましい。利用者の登録は原則として利用者が所属する機関の図書館等とし利用料金については、データベースの種類及び利用者の所在の遠近にかかわらず、なるべく同一料金とすることが望ましい。
5. ネットワークシステムの構成等
- 二次情報等のデータベースによる情報検索ネットワーク（大型計算機センター、国立大学共同利用機関等からなり、比較的単純な構造のネットワーク）と、目録・所在情報の形成とこれに関連する図書館情報処理のネットワーク（大学図書館等からなり、地域の代表的な大学図書館のシステムを中間的に置く多層型ネットワーク）の2種類を有機的に統合したネットワーク構成とする。また、一次情報提供メカニズムの改善方策の研究及び国内外の関連システム（JICST等）との調整・協力を行うことが望ましい。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

チを押しさえすれば、何度でも繰り返し放映できるという便利さがある。

今回は短期間で、しかも初めての試みということもあり、内容の点でも、編集など技術的な面でも多くの改良すべき点が残された。これらはオリエンテーション開催の時期と共に次年度までの検討課題となった。

(参考調査掛)

(新入生のオリエンテーション用に作ったものですが、どなたでもご覧になれます。ご希望の方はあらかじめグループで参考調査掛までお申出ねがいます)

本学教官等の寄贈図書紹介

西村 嘉助(名誉教授)

西村嘉助先生退官記念地理学論文集
昭和55年 古今書院 非売品

服藤 弘司(図書館長、法学部教授)

児玉幸多 監修、若林喜三郎 編
地方史研究叢書10
加賀藩社会経済史の研究

昭和55年 名著出版 ￥ 5,800

服藤 弘司(図書館長、法学部教授)

幕藩体制国家の法と権力 Ⅱ
大名預所の研究

昭和56年 創文社 ￥ 11,000

今泉 力蔵教授業績顕彰記念会

今泉 力蔵(元教養部教授)
日本産化石甲殻類一とくに貝甲類および軟甲類の分類一

1978年 非売品

金谷 治(文学部教授)

人類の知的遺産(4) 孔子
昭和55年 講談社 ￥ 1,500

扇畑 忠雄(名誉教授)

扇畑忠雄歌集(現代歌人叢書48)

野 葡萄

昭和56年 短歌新聞社 ￥ 700

菊地ヒサ子

渡辺萬次郎(元名誉教授)

思い出の記 一人の一生
昭和55年 非売品

本学教官等の研究成果である著作物を出版されたおりは、一部を是非当館にご寄贈いただければ幸と思います。

なお、ご寄贈いただきました著作物は本誌に掲載し全学に周知し、研究者、学生の利用に供したいと思います。

『開館時間の延長について』

かねてより、教官・研究者及び学生から、『図書館をもっと長く開いて欲しい』という強い要望がありましたが、今年度からその要望に答えて、従来の時間から更に延長して開館することになりました。

昨年度迄は、平日は午後6時30分迄、土曜日は、午後3時迄しか、図書館を開きませんでした。この4月から平日は午後8時迄、土曜日は午後5時迄、延長して開館いたします。

また、延長時間中には、専門司書職員がかならず一名は残っていますので、簡単な参考案内についても、気軽にご相談下さい。

利用者の皆さんのより一層の図書館利用を待ち望んでいます。

なお、今年度の延長開館実施期日については、最終頁の『お知らせ』の所に出ています。

昭和56年度総合研修委員きまる

今年度の総合研修委員選出のための選挙が去る4月21~22日の両日実施され下記の5名が選出された。

館長より委員の委嘱をうけ、この一年間職員のための研修計画と実施に活躍されることが期待される。

委員長	湯本 一義(書庫掛長)
委員	石田 義光(和漢書目録掛長)
〃	中島 通昌(閲覧掛長)
〃	米沢 彰(洋書目録掛長)
〃	阿部 佳市(洋書目録掛)

東北大学記念資料室だより

記念資料室を利用される方々が次第に増加して来た。近ごろジャーナリズムで話題になって来た、いわゆる情報公開という動向といくらか関係があるのかもしれない。本室は本学の歴史に関係ある資料全般を取扱っているもので、記念物品や関係図書などと共に大学の公文書や印刷刊行物をも対象としているため、関係が深いわけである。

本室が10余年前から英訳名をアーカイヴズ (TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES 東北大学公(古)文書館) としているのも、それを考えてのことである。欧米先進大学の、大学公文書・刊行物館と大学歴史博物館とを合わせたものを構想して大学記念資料室と称したのである。

最近世上にさかんな情報公開議論はすこし感情的・官僚攻撃的に過ぎて、秘密性の高い公文書の公開を迫る快感を追いがちで、官庁の公文書・刊行物(小冊子)という2大情報源のうちの、刊行物を公開させこれを十分に利用するという穏健かつ有益な第1の段階を忘れていてのではないかと思う。それを満たして後、第2の行政などの公文書の公開にと進むのが正しいのである。もっともそのようにステップを踏んで進ませるためには、官庁の側で印刷した刊行物を要求に応じて販売したり、もれなく蓄積して無料で閲覧させる用意が必要である。米国連邦政府はケネディー大統領のとき、それまでそのような蓄積図書館が600あったのを、1,000に増加した。日本にはその実質をもつものは国会図書館ただ1つである。日本の官庁は公文書はおろか印刷刊行物さえ、市民に閲覧させる(図書館的な)努力をおこたって来た。そうして今日日本の言論は印刷刊行物の閲覧・勉強の(図書館的な)段階をかえりみないで、文書の公開をこれもとめている。両方とも政治的であって情報尊重的でなく、秘密の隠匿と暴露との合戦である。

本学記念資料室は、公文書の収集は後まわしにして、全学の協力のもとに各部局の印刷刊行物を毎年送付していただいて蓄積している。年々御協力は厚みをまして立派な情報源となって来た。この機会に関係の方々に深く感謝の意を表したい。公文書は強いて要求せず自主的に送られて来るのを中心としている。それでも次第次第に集まって来る。そうして利用者の増加もかなり著しい。

(副室長 原田隆吉)

会 議 等

- 国立大学図書館協議会理事会第2部会
と き 昭和56年2月12日
ところ 東京大学附属図書館
出席者 服藤館長 長尾事務部長
- 国立大学図書館東北地区協議会臨時事務(部課)長会議
と き 昭和56年3月18日
ところ 東北大学附属図書館
- 第1回西洋社会科学古典資料講習会
と き 昭和56年3月18~20日
ところ 一橋大学社会科学古典センター
受講者 洋書目録掛 渡部昌子
- 学術情報センターシステム説明協議会
と き 昭和56年3月26日
ところ 国立教育会館
出席者 長尾事務部長
- 昭和56年第1回東北大学附属図書館商議会
と き 昭和56年4月14日
ところ 図書館会議室
- 第12回国立大学図書館東北地区協議会総会
と き 昭和56年4月17~18日
ところ 秋田大学附属図書館
出席者 服藤館長, 長尾事務部長, 村岡企画・渉外掛長
齋藤工学分館長, 佐藤図書掛長
小野農学分館図書掛長
- 国立大学図書館協議会理事会第2部会, 常務理事会
と き 昭和56年5月14日
ところ 東京大学附属図書館
出席者 服藤館長, 長尾事務部長
- 昭和56年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会, 国立大学図書館協議会理事会
と き 昭和56年5月15日
ところ 東京大学附属図書館
出席者 服藤館長, 長尾事務部長
- 漢籍担当者講習会
と き 昭和56年5月18~23日
ところ 京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター
受講者 湯本書庫掛長
- 国立大学図書館事務部課長会議
と き 昭和56年5月22日
ところ 東京医科歯科大学
出席者 長尾事務部長, 柿沼閲覧課長, 木本医学分館事務長

JOIS — II サービス

昭和55年4月1日から附属図書館では日本科学情報センター（JICST）が開発したオンライン情報サービス（JOIS）を行なって来ましたが、今年4月からは JOIS—I が JOIS—II に引継がれ、より多くのファイルの質、量が拡充されましたのでお知らせします。

JOIS 利用時間

(昭和56年4月現在)

サービス 時間	月	火	水	木	金
9 : 30 } 17 : 00	JICST 81	JICST 81	JICST 81	JICST 81	JICST 81
	JICSTK 81	JICSTK 81	JICSTK 81	JICSTK 81	JICSTK 81
	JICST 7580	JICST 7580	JICST 7580	JICST 7580	JICST 7580
	JICSTK 7580	JICSTK 7580	JICSTK 7580	JICSTK 7580	JICSTK 7580
	JCLEARING	JCLEARING	JCLEARING	JCLEARING	JCLEARING
	JCLEARINGK	JCLEARINGK	JCLEARINGK	JCLEARINGK	JCLEARINGK
	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE
	CASEARCH		CASEARCH		CASEARCH
		TOXLINE		TOXLINE	
	JTERM 81	JTERM 81	JTERM 81	JTERM 81	JTERM 81
	JTERMK 81	JTERMK 81	JTERMK 81	JTERMK 81	JTERMK 81
	JTERM 78	JTERM 78	JTERM 78	JTERM 78	JTERM 78
	JTERMK 78	JTERMK 78	JTERMK 78	JTERMK 78	JTERMK 78
	JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG
	MESH 80	MESH 80	MESH 80	MESH 80	MESH 80
	CASNAME		CASNAME		CASNAME
		CHEMLINE		CHEMLINE	

データベース名称

JICST 81 : JICST 科学技術文献
ファイル81年分（カナ）
JICST 7580 : JICST 科学技術文献
ファイル75～80年分（カナ）
JCLEARING : JICST 科学技術研究情報
ファイル（カナ）
MEDLINE : MEDLINE 医学文献ファイル
CASEARCH : CASEARCH 化学文献ファイル
TOXLINE : TOXLINE 毒性文献ファイル

JTERM 81 : JICST 科学技術用語
シソーラスファイル81年版（カナ）
JTERM 78 : JICST 科学技術用語
シソーラスファイル78年版（カナ）
JCATALOG : JICST 資料所蔵目録ファイル
MESH 80 : MESH 医学用語ファイル80年版
CASNAME : CASEARCH 化合物ファイル
CHEMLINE : CHEMLINE 化合物ファイル

※ JICSTK, JCLEARINGK および JTERMK は漢字ファイルです。

本館の機種の実出力は英、カナファイルで漢字ファイルはできません。

JOIS 利用料金

(昭和56年4月現在)

1. オンライン料金

データベース名	ファイル接続料金		オフライン料金		
	特定回線	公衆回線	手配料金	回答出力料金	
				¥OFF1 (Aタイプ)	¥OFF2 (Fタイプ)
JICST	280円/分	210円/分	500円/回	35円/件	17円/件
JCLEARING	280円/分	210円/分	500円/回	17円/件	17円/件
MEDLINE	280円/分	210円/分	500円/回	35円/件	17円/件
CASEARCH	397円/分	327円/分	500円/回	—	49円/件
TOXLINE	350円/分	280円/分	500円/回	43円/件	25円/件
JTERM	280円/分	210円/分	—	—	—
JCATALOG	280円/分	210円/分	—	—	—
MESH	280円/分	210円/分	—	—	—
CASNAME	397円/分	327円/分	—	—	—
CHEMLINE	447円/分	377円/分	—	—	—

Aタイプ：抄録付き全項目 Fタイプ：抄録なし全項目

2. SDI料金(1質問当り)

データベース名	基本料	回答出力料
JICST	1,630円/回	35円/件
MEDLINE	1,630円/回	35円/件
CASEARCH	1,380円/回	49円/件

3. その他のオンライン料金

項 目	料 金
質問登録料金(1質問当り)	25円/日
オンライン複写申込接続料金	90円/分
会話退避料金	360円/回

附属図書館商議会商議員

昭和56年4月1日現在商議会商議員は次の通りである。

図書館長	服 藤 弘 司	理学部教授	武 田 暁
医学分館長	山 本 敏 行	医学部教授	吉 沢 善 作
工学分館長	斎 藤 秀 雄	歯学部教授	青 木 健
農学分館長	高 橋 甫	薬学部教授	山 中 宏
事務局長	五十嵐 淳	工学部教授	斎 藤 伸 自
文学部教授	井 上 秀 雄	農学部教授	金 田 尚 志
教育学部教授	前 原 寿	教養部教授	岩 田 孝 夫
法学部教授	小 山 貞 夫	通 研 教 授	稲 場 文 男
経済学部教授	金 田 重 喜	選 研 教 授	戸 沢 一 光

お知らせ

○入館券の交付について

東北大学附属図書館（本館）を利用する本学の教職員及び学生は、利用者として登録をし入館券の交付を受けて下さい。交付を受けていないと図書館の利用が出来ませんのでご注意下さい。入館券の申込受付は、学生は開架閲覧室カウンター（2階）、教職員・院生はメインカウンター（1階）で常時おこなっています。

○時間外開館について

昭和56年度の延長開館の実施期間（予定）は下記の通りです。

なお、延長開館の時間は（9時から）、平日は20時まで、土曜日は17時までです。

記

実施期間 昭和56年4月13日（月）～7月15日（水）
9月1日（火）～12月22日（火）
昭和57年1月11日（月）～2月27日（土）

人事異動

発令年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
56. 3. 31	総務課 事務補佐員	武田 節子		辞職
"	整理課 "	阿食 恵子		"
"	閲覧課 "	藤原 美由紀		"
"	医学分館 "	菊池 裕子		"
56. 4. 1	総務課 企画・渉外掛長	遠藤 哲朗	富山医科薬科大学教務部図書課長	昇任
"	" 庶務掛長	武蔵 福志	工学部 総務課企画掛長	配置換
"	" 文部事務官	長南 丈夫	大型計算機センター 文部事務官	"
"	医学分館 "	阿食 秀昭	東京大学経済学部 "	転任
"	宮城工業高等専門学校会計課出納係長	小野寺 勉	総務課 庶務掛長	"
"	閲覧課 書庫掛長	村岡 徹	" 企画・渉外掛長	配置換
"	宮城教育大学附属図書館整理係長	菅沢 栄治	整理課 逐次刊行物掛長	転任
"	医学分館 運用掛長	中島 通昌	閲覧課 閲覧掛長	配置換
"	閲覧課 閲覧掛長	田代 寛	医学分館 運用掛長	"
"	" 文部事務官	湯本 一義	閲覧課 書庫掛長	昇任
"	大型計算機センター "	鈴木 一郎	総務課 文部事務官	配置換
"	閲覧課 "	阿部 佳市	整理課 "	"
"	整理課 "	佐藤 正志	閲覧課 "	"
"	" "	佐々木 勝義	" "	"
"	東京大学経済学部 "	佐藤 義則	" "	転任
"	閲覧課 "	川村 隆男	医学分館 "	配置換
"	東京大学史料編さん所 "	菊地 房雄	" "	転任
"	工学部 "	近江 淳子	工学分館 文部事務官	配置換
"	閲覧課 事務補佐官	渡辺 春美	整理課 事務補佐員	"
"	" "	今泉 みはる	" "	"
"	整理課 "	小野寺 裕子	閲覧課 "	"
"	工学部 "	佐藤 公子	工学分館 "	"
"		杉山 博子	総務課 "	採用
"		菊池 久恵	閲覧課 "	"
"		澤山 房江	医学分館 "	"
"		小畑 穂子	工学分館 "	"
56. 4. 7	農学分館 事務補佐員	太田 裕子		辞職
56. 4. 21		藤田 絵美	農学分館 事務補佐員	採用
56. 5. 1		佐藤 典子	閲覧課 "	"

東北大学附属図書館報「木這子」 第6巻 第1号（通巻第21号）昭和56年5月30日発行

編集委員長 佐々木勝義 編集委員 佐藤賢策、藤原克彦、京極菊子、森脇ちか

発行人 長尾公司 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800（2408）